

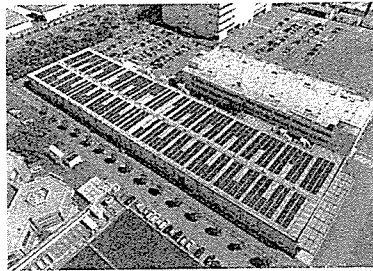
2023.10.17
日本経済新聞

栃木3工場に太陽光発電

自動車用金属バネを製造・販売する村田発條（宇都宮市）はこのほど、国内の3工場すべての屋根に太陽光発電設備を導入した。自家発電能力を強化することで高騰する電気代の負担を軽減し、電気自動車（EV）普及に向けた将来の業態転換へ企業体力を温存する。市内の清原工場に設置面積7814平方メートルのソーラーパネルを導入、9月末に稼働した。すでに同市内の平出工場と栃木県塩谷町の工場にも設置しており、国内の3工場すべてに導入が

村田発條、電気代負担を軽減

村田発條は宇都宮市にある清原工場の屋根に太陽光発電設備を導入した



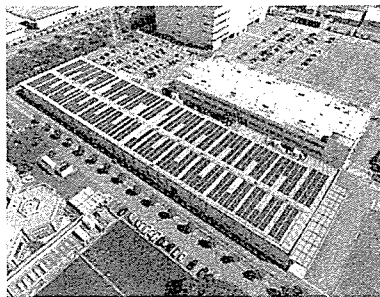
完了。3工場の年間発電量は、同社の年間消費量の約15%にあたる217万キロワットとなる。

同社は4メートル以上の普通トラック・バス用の「バルブスプリング」でほぼ100%の国内シェアを持つほか、自動車変速機用の「ダンパー・スプリング」でも国内30%、世界で15%（同社推計）のシェアを持つ。金属バネは製造工程で熱処理などに大量の電気を消費する。今後EVの普及が進めば同社の製品は需要が減少する可能性もあり、足元で高騰する電気代負担を少しでも軽減し、新規事業のための大型投資に備えるねらいだ。

2023.10.23
日刊工業新聞

清原工場に 太陽光発電

村田発條



【宇都宮】村田発條（宇都宮市、村田雄郎社長）は、清原工場（同市）に太陽光発電設備（写真）を導入した。政府が進める2050年のカーボンニュートラル（CN、温室効果ガス排出量実質ゼロ）実現と事業拡大に向け、再生可能エネルギーの活用を進める。

設置面積は7800平方メートルで、発電容量は900キロワット時。500キロワット時を売電し、その収益を電気自動車（EV）化対応のための製品開発へ充てる計画。同社が太陽光発電設備を設置するのは、平出工場（同市）と塩谷工場（栃木県塩谷町）に続き3拠点目。今回の設置で総発電容量は1800キロワット時、総発電量は年間217万8000キロワット程度となる。同社は1913年12月に金物店として創業。33年にバネ製造を始め、現在はトラック向けなどでニッチトップ企業となっている。